福澤全集緒言

第十四 童蒙教草

福澤諭吉

日本の洋學は百二十餘年前蘭學門より入り同時に物理學は學者社會の最も悦ぶ所にして藥材學に兼て化學、本草學、數學、天文學等を修る者も少なからず嘉永開國の後は以上諸科に續ぐに兵學を以てし明治維新の前後に至りて更らに面目を改め慶應三年夏余が米國より歸來のとき歴史、經濟、法律、數學等諸種の原書を輸入して私塾の教科書に用ひたるみな洋學教場の一大進歩にして日本國の少年子弟が始めて萬國の歴史を讀み經濟の主義を聞くが如き一として新奇ならざるはなし其書を教る者も學ぶ者も唯文を解するに巧拙あるのみ中の事柄に至りては師弟共に等しく初學人門のことなれば一句一章讀み去り讀み來りて相共に拍手快と稱するもの多し誠に愉快なる次第なれども道德論の一段に至りては余が米國在留中にも頓と心付かずして其書類の有無をも知らざれば固より之を携へ歸らず然るに當時吾々の文明思想は次第に發達して恰も天下に恐るゝ者なしと雖か自から信じて竊に得々たりと雖も西洋の道德如何の議論を聞くときは何か物足らぬ心地して安んじ難きを得ず塾中長者の報も苦心する所なりしに明治元年の事と覺ゆ或日小幡篤次郎氏が散歩の途中、書物屋の店頭に一冊の古本を得たりとて塾に持歸りて之を見れば米國出版ウェーランド編纂のモラル サイヤンスと題したる原書にして表題は道德論に相違なし同志打寄り先づ其目錄に從て書中の此處彼處を二三枚づゝ熟讀するに如何にも德義一偏を論じたるものにして其だ面白し斯る出版書が米國にあると云へば一日も捨置き難し早速購求せんとて横濱の洋書店丸屋に託して同本六十部ばかりを取寄せたるサイヤンスの譯字に就ても樣々討議し遂に之を修身論と譯して眞に塾の教場に用ひたり是れより塾中には物理經濟の外に新舶來の德論を論ずることなりて自から面目を新にし既に事の端緒を開けばウェーランドの外に羅揮の修身教科書を得るみとも嘗だ乏しくして明治四五年の頃に至り童子教ども云ふ可き物語りの原書を飜譯したるものは貴歌草五冊なり古來外國人の事を禽獸のやうに云ひ嗤し紅毛人の尻には尾があるなど思ひし童の話を解く爲めには隨分有力なる飜譯書なりしと思ふ

かたわ娘

かたわ娘は實にたわいもなき小說やうのものなれども之を綴りたるには自から其時の事情あり明治四五年の頃、八の曙を傳聞するに京都の堂上公卿の中には今尊王攘夷論に傾ける者ありと云ふ余は竊に不平に堪へず文明、進歩くの外なし數百年來京都の公卿輩が國中に重きを爲し得ざりしも偶然に非ず實に氣の毒なる次第なれば今これを文明に導て活潑男兒たらしめんとするには先づ其外形よりして兎も角も婦人やうの鬘髮を廢せしむるみを至愚なれと思ひ、銃擊起劍して之を議論せんとする所存、不圖思案すれば待てしばし、公卿が婦人の眞似するは滑稽可笑しけれども其婦人が天然に白き面を持ちながら態と之を黑く染るも亦笑ふに堪へたり左れば小數の公卿は咎るに足らず全國大多數の婦人の面を白くして天然の美を保たしむるは事の順序なり婦人にして果して鬘髮の陋習を脫するときは京都の柔弱男兒も自から愧ぢて自から改むるや必せり一舉兩善の法なりと是に於てか最前の文案を改め單に婦人に向て鬘髮の利害を說かんとし筆を黑くするは人爲の片輪者なりとの意味を以て之を諷したるみとなり

社說

北越鐵道の爆裂事件

は實に言語道斷の始末なり同鐵道停車場の位置云々に關し新潟市民の中には紛擾より異論を唱へて既に先頃も穏ならぬ擧動を演じたる者ありし由なれば今回の暴擧も何れ其邊の事情よりして無智の末裔が譯けもなく一時の憤に乘じ斯る始末に及びたるものならん單に破落戸輩の擧動にして深き原因はなきことならんには容易ならざる次第なれども今後の慣例ともならんには容易ならざる次第のものなり西洋諸國にて虛無黨の輩が同國皇帝を弑したるが如き最も著しき例にして政治上の不平などに出でたる暴擧は往々耳にする所なれども鐵道開通の爲めに地方の利益を殺かる可しなど單に一地方の利害論の爲めに爆裂彈を用ひて鐵道を破壞したるが如き事例は未だ嘗て見ざる所にして若しも外國人をして聞かしめたらば如何なる感覺を起す可きや鐵道は文明の機關にして其開通は地方の疲遠の爲めに大に喜ぶ可き所のものなるに其人民が苦情を唱へて反對の運動を逞うするのみならず果ては爆裂彈などの兇器を用ひ破壞を試みるものありと云ふに至りては取て容易ならざる次第なれども尚ほ眼前の利害を見て念なきに非ず即ち世界に對して國の品位を落すものにして容易ならざる次第なれども尚ほ眼前の利害を見れば更らに容易ならざるものあり改正條約の施行、外人雜居の期も甚だ近くして近來は內地漫遊の外客年々增加の勢のみならず外人の中には內地の事業に資本を投ぜんとする者さへ少からず外資輸入の道も漸く開けんとする今日に當りて斯る暴擧の出來を聞かば彼等の實情は如何なる可きや外國人は日本を文明國と認め財產生命の安全を期して自から資本を投ずるの考を起すに至りしものなれば斯る出來事を見ては日本の文明は名のみにして實際その人民は全く未開の蠻民なり未開の土地に放資するは危險至極なりとて先づ以て思ひ止まらざるを得ず即ち腐に開けんとする外資輸入の道を塞ぐのみか爆裂彈を以て鐵道の破壞を企つるが如き蠻民の住する國中には只の旅行さへも劍呑なりとて漫遊の客も自から跡を絶つに至らざるを得ず外人の身として考ふれば無理ならぬ次第にして果して斯る成行を見るみともわらんには當に外人來遊外資輸入の望を絶つのみならず其結果は外國貿易の不繁昌を致して日本は世界に對して野蠻の惡評を受くる其上に商賣貿易の利益をも失ふに至らざるを得ず返す〳〵も容易ならざる次第なりと云ふ可き近來地方の有樣を見るに何か事業を發起するものあれば傍近の人民等は恰も徒黨して種々の苦情を唱へ强迫の手段に出づるもの少なからず而して其始末を如何と云ふに警察官などの處置は甚だ緩慢のみか實際には往々車業家の不利に歸するみとなきに非ず暴覺今回の事件の如きも徒黨强迫の流行病に感染して既に種々の手段を逞うしたる末、尙ほ厭き足らずして斯る暴擧に及びたるものにして其本を糺せば政府の威嚴立ずして暴民輩をして恰も亂暴に慣れしめたるの結果に外ならずと云ふも可なり若しも今後かゝる暴擧が續々行はるゝみともあらんには文明進歩の爲めに非常の妨害にして其影響する所は實に容易ならず單に一地方の出來事として見る可きに非ざれば政府の當局者は地方官に嚴命して警察官をして飽くまでも事實を探究せしめ法廷に於ては一毫も用捨せず嚴重に處分して大に警しむる所を知らしむるは勿論、今後彼の徒黨强迫がましき擧動に對しては行政權に許す限りの力を用ひて充分に取締り寸毫も怠慢を容す可らず是れぞ文明政府の威嚴にして我輩の敢て望む所のものなり

○京都に於ける福澤先生招待會

京都の慶應義塾同窓生、交詢社員一同は福澤先生の西下を幸ひ秋期聯合總親會を開き先生の臨席を請はんとて委員總代梶原伊三郎、松原重榮二氏は曩きに大阪に先生を請ひ請ふ所ありしに其承諾を得たれば去る十四日を以て開會せり

是れより先き福澤先生は去る六日大阪慶應義塾同窓會に臨み翌日二日、九日を以て大阪を發して廣嶋に一泊し十日は廣嶋より備山に至るの新鐵路を視察し直に引返して宮嶋に一泊、翌十一日宮嶋を發して岡山に泊し十二日には岡山を辭して大阪に歸着し十三日には箕面に秋色を探り十四日を以て右の會合に列せんが爲めに京都に向はれたり

同日午後三時に至り右會場なる祇園中村樓に來會するもの殆んど六十名に達し先生は旅館松吉より徒步會場に着して設けの席に就かるゝや幹事總代梶原伊三郎氏は起て開會の趣意を述べ併せて福澤先生の臨場を感謝せしに福澤先生は直に立て左の如く演說ありたり例に依りて快辯流るゝが如し

余は此度圖らずも西下して愛に諸君の御招待を辱うし獨り余のみならず多人數の家族までも御招きに預りたるは誠に稀有き事に存じます 偖余が今回西下したるは別に觀事とか何とか云ふ樣な六かしき意味あるに非ず只時々變りし土地を見、變りし空氣を呼吸するは健康上必要の事と醫士も申し自分も信ずるが故に每年時期を見計ひ各地に漫遊する次第にて昨年は信越地方に遊び本年は南森邊へ向はんと思ひしなれども元々道樂心より漫遊するみとなれば知らぬ土地よりは寧ろ慣れたる土地の方が宜しかるべしと偖てみを家內や親や親戚まで引連れて當地方に來りしまでの事なり何も別に考へなどある譯にわらず

偖今日は慶應義塾の同窓生と交詢社の人々とが此所に集會するみとで思ひ出したが每々申す事ながら人間の性は善とか惡とか申せども善の事もあれば惡の事もある左れば集會したればとて左まで利益のある譯でもないが併し慥かに嗣を止めると云ふだけの功力はある例へば大久保が殺されたの時余はソー思ふた若し剛容と大久保とが腕を交へて一月か二月も居つたならば決して大久保を殺す樣なみとはなかつたに相違ない嗣の如きは實に人間の變轉を知れぬ近くは付廻はつた男には陋樣な事を聞くのが新智識なる者の事ものではない左れども飲むにも常らぬ會合してドウ云ふみとなり土地に對して世界に對して ある北陸がドウ考へを除いて本は ドーダ此 くかと云ふ事云ふものがあ國もある偖日いものもある番心持ちの宜し愛する奈良の千年前の建洋人の來遊を はドーしても斯く說を立てが一番かと云はない左れば的とせねばな經濟家が同船家は昨年英國た云ふた其時佛國酒を輸出せぬ間の道德を高めふて大變高尙なンナ高尙な考らざるものでも讀めぬソレデ商賣するとは元入れと思ふて都を繁盛にする大小名が疎遠でもあつた故、繁昌すれば藩色で生活せんと思たみともがあれ共余の者も自から跡を絶つに至らざるを得ず外人の身として考ふれば無理ならぬ次第にして果して斯る成行を見るみともわらんには當に外人來遊外資輸入の望を絶つのみならず其結果は外國貿易の不繁昌を致して日本は世界に對して野蠻の惡評を受くる其上に商賣貿易の利